

第2回総合戦略推進委員会

要点記録

日時：平成30年7月25日（水）
午後6時30分～8時10分
会場：庁議室

次 第

- 1 開会
- 2 議題
(1) 平成29年度総合戦略における具体的な施策の進捗状況報告及び評価について
- 3 その他
- 4 閉会

配布資料

- 机上配布
- ・「総合戦略における具体的な施策等進捗状況一覧」の修正
 - ・第1回総合戦略推進委員会【要点記録】

出席者（敬称略）

- 委員長・・・松本祐一（多摩大学総合研究所）
副委員長・・・八戸和子（立川公共職業安定所）
委員・・・水野宏一（昭島市商工会）、沼崎明大（多摩信用金庫）、勝見真之（連合多摩中央地区協議会）、樽松洋（公募市民）、山内昭裕（公募市民）
事務局・・・山下企画部長、萩原企画政策課長、枝吉企画調整担当係長、高橋
※欠席・・・副委員長 八戸和子（立川公共職業安定所）、齋藤久未（J:COM多摩）

1. 開会

- 事務局より配布資料等の確認

2. 議題

- (1) 平成29年度総合戦略における具体的な施策の進捗状況報告及び評価について

①基本目標1「安定した雇用を創出する」について

- 事務局より資料に基づき、説明

委員長・・・ 基本目標1は、「安定した雇用を創出する」である。昭島市には核となる大きな企業があることから、その繋がりをどのようにしていくのか、また、中小規模事業者に対してどのような支援をしていけば良いのか、さらには都市農業をどのように盛り上げていくのかということを中心に施策を展開している。これらを踏まえ、ご意見やご質問をいただきたい。

水野委員・・・ 市にとって長年の懸案だった産業振興計画が策定された。具体的な目標を掲げ、PDCAサイクルを用いるなど、大きな改善がみられた。総合戦略においては、策定することそれ自体をKPIとしているが、これは策定

したから目標をクリアと捉えているのか。

事務局・・・ 公共施設等総合管理計画も同様な目標設定としたが、こちらについては、個別施設計画を策定し、引き続き適正な公共施設の維持・管理に努めていくという、新たな目標設定をしていきたいと考えている。

産業振興計画についても、策定したから終わりということではもちろんないので、担当部課と調整し、次の会議までにどのような目標設定がふさわしいのか、議論できるような形で示していきたい。

委員長・・・ 産業振興計画は多岐にわたり、様々な目標が設定されている。その中で、元から計画されていたものと新たに設定したものが混在している。その進捗状況の確認は当然必要であり、また、一定時期での見直しも必要となる。そのあたりについて、担当課の考え方などを取りまとめて、示していただきたい。

沼崎委員・・・ まちのにぎわい再創出事業補助金の利用件数が、目標7件に対し実績が1件となっている。通常、創業関係の補助金は比較的申込みが多く、倍率が高くなるイメージを持っていた。理由は資料に記載されてはいるが、補助金の使い勝手が悪いものになっている可能性もあるのではないかと。周知は十分されている印象があるので、補助金の内容について、しっかりと分析し、要件等の緩和を検討されたい。

事務局・・・ 利用者が創業したい時期と補助金の申請時期が一致しない事例があることは担当課より聞いている。補助金自体は年度内での完結型なので、少し使いづらい面があるのかもしれない。今後については、申請時期の見直しも含め、活用しやすい補助金となるよう検討していくと担当課より回答があった。今年度以降、対応をすすめていくと認識している。

委員長・・・ 就職フェアIn昭島の開催について、大幅に人数が増えている。これは単純に会場規模を大きくしたとか、回数を増やしたということなのか、それとも別の要因があるのか。

事務局・・・ 今回会場が昭島市内であったことやミニ面接会などを本庁舎で行ったことなどが参加者の増加に繋がったと分析している。回数も当然増えているはずだが、対前年度比較の具体的な回数については、次の会議にお示ししたい。

委員長・・・ 目標を達成しているものについては、成功要因をしっかりと把握していきたい。

山内委員・・・ 昭島市に他市等から人が来て、住んでもらうということが総合戦略の大きな目標であると思われるが、それについては何らかの仕掛けを作らないと難しいと考える。ここに列挙されている市の業務を継続し、発展させていくことは当然必要ではあるが、他市等がやっていないような取組をたくさん考え、その中から実現可能なものを選択することも重要である。その観点から、目標1に対して二つほど取組を考えてみた。

一つは、創業支援に関して、起業するのは大変な労力が必要となるが、昭島市に個人商店でユニークものがあればいいなと感じている。昭島駅南口に細い路地があるが、例えば、その道路をレンガ畳にするなどしてユニークな商店街にできないかなと考えている。所沢駅にはプロペ通りという商店街があるが、あのようなものが昭島にもあっても良いのではないかと。

もう一つは、農業支援にあたるのかもしれないが、市役所の周りなどに

畑が未だ残っている。一部耕作をしているようだが、半分以上耕作されていないように見受けられる。恐らく人手が足りないのだと思われるが、農業を希望する若い女性に土地を貸し出して、所有者が農業のノウハウを教える。そうすれば、土地の活用にも繋がるし、若い女性のユニークな発想で農業ができるのではないか。そのような所に目を付けてみるのはどうだろうか。

委員長・・・ 今、山内委員からいただいたご意見は、産業振興計画の中の商業発展の部分において、考え方としては盛り込まれていて、若い人が新しいお店を出すとか空き店舗を活用するとかいったことは意識している。山内委員から提案いただいたような大胆な発想まではいかないが、要素としては含まれている。

山内委員・・・ 昭島駅北口は素晴らしい商業施設が展開されているが、南口が少し寂しく感じられるので、北口にはない切り口で商業が発展していくと良いと感じている。

委員長・・・ 水野委員も商工会として取り組んでいる部分もあると思われるので、少しコメントをいただきたい。

水野委員・・・ 確かに、商店街を歩けば、色んな物が買え、名物料理が堪能でき、つまみ食いもできる、そういった商店街ができると良いなどは感じる。商業を営む皆さんも日々、商業部会という商工会部会の中で、様々な観点からその取組について話し合いをしている。ただ、現実として、山内委員からあったとおり昭島駅南口の商店街がなくなってきている実態もある。今後、実態を把握した上で時代の変化に対応した事業を展開していかなければならないと感じているところである。一気に商店街を作るといった事業は土地等の活用で難しい面があると思われるが、大変貴重な意見をいただいたので、このようなお話があったことは商工会にフィードバックしていきたいと思う。

樽松委員・・・ 青梅線沿線地域産業クラスター協議会事業について、これは中小企業に限定した取組なのか。大手企業や市役所などは対象としていないのか。

水野委員・・・ 確かに、中心となるのはものづくりを業態とする中小企業の人材確保の支援であるが、大手製造業を除外する取組ではなく、日本航空電子工業株式会社なども参加している。昨今、ものづくり企業への就職希望者が減っている現状がある。西多摩地域のものづくり企業の魅力を伝えていくために、各大学で説明会を実施するなど、関係商工会や自治体が一体となってその魅力を発信する取組を展開した結果、本日、青梅線沿線地域産業クラスター協議会事業に参加してきたところであるが、本年度の参加者は若干増加したようである。

樽松委員・・・ 大手企業や市役所なども対象とすれば、参加者がもっと増えるのではないかと感じた。

委員長・・・ 大学でも学内に企業を呼んで説明会を行うなど独自の取組は増えてきている。企業としても学生を近くに感じて説明会を実施でき、学生も色々な所に出かけることなく、学内で説明会に参加できるといったメリットもある。売り手市場の中、企業説明会に様々な選択肢があることなどを背景として、本事業の参加者が伸び悩んでいると思われる。ただ、逆にものづくりにこだわって実施するというのも、そういった企業を希望している学生にとっては良い機会だとは思う。それらを踏まえると目標値が大きいと感じ

じるところではある。就職希望参加者数100人というのは現実味がなく、そこはK P Iの見直しも視野に入れて検討していく必要もある。

事務局・・・担当課においても時代に見合った内容とすべく、協議会の中で検討をすすめていきたいという話もあったところである。それを踏まえ、報告書の中ではK P Iの修正が必要な項目として位置づけていきたい。

委員長・・・本委員会としても、そのような意見を記載した形で報告書をまとめていきたい。

目標値を下方修正することに対して、水野委員はいかがか。

水野委員・・・ものづくりに携わる方々も良い人材を集めたいと様々な取組をすすめてはいるが、なかなか良い数値が出ない現実があるので、目標値については見直すのが妥当かと思われる。

委員長・・・この事業は、大学生と地元企業とのマッチングの視点において、重要な役割を担っていると考えるが、やり方を変えないとイメージが先行し、今の学生たちはものづくりの現場に振り向いてくれない状況もあるかと思われる。青梅線沿線地域産業クラスター協議会においても昨今の雇用環境に鑑み、本事業の課題整理を行った上で、事業内容の見直しも視野に、時代にあつた取組内容となるよう検討をお願いしたい。

事務局・・・基本目標2へ入る前に、基本目標1について、本日欠席の八戸副委員長から事前にいただいた質問等を紹介したい。

企業の見学ツアーについて、どのように人を集めているのか、質問をいただいた。見学ツアーの実施の際には、広報等により周知している。市内の企業を集中的に訪問する6月、7月は、リーフレットを観光案内所に配布したり、HPなどを活用するなど様々な媒体により周知を行っている。

また、ハローワークでのリーフレットの配架など情報提供できないかといった提案をいただいた。これについては、今後、配架を依頼する方向で検討していきたい。

②基本目標2「昭島へ新しいひとの流れをつくる」について

○事務局より資料に基づき、説明

委員長・・・基本目標2は、「昭島へ新しいひとの流れをつくる」である。これは、昭島市に訪れてくる人、または住んでくれる人をいかに増やしていくかということになるが、その手段として都市基盤を整備していくのか、あるいは観光を推進するのか、さらには、伝統文化、ブランド構築、魅力発信の強化という部分が項目として挙げられている。ご意見やご質問をいただきたい。

勝見委員・・・私からは3点確認させていただきたい。

まず、観光マップ作成について、週に数回、東京観光情報センター多摩に行くが、昭島の観光マップはもうないという状況であり、それが長い期間続いていることから、再配架していただきたい。また、A5サイズだと見落とされることが多いので、他の自治体と同様にA4サイズにすることを検討していただきたい。中身は非常に良いので、積極的にアピールしていただきたい。

次に、公式キャラクターの活用について、ご当地ナンバープレートにアッキー・アイランを活用してはいかがか。

最後に、ふるさと納税について、総務省からは是正するよう勧告があつた

と思われるが、それを受けての今後の見通しを教えてください。

事務局・・・はじめに、観光マップの作成については、当初のコンセプトが折りたんで持ち運べるサイズということで作成した経緯があり、他市に比べると小さめになっている。確かに、配架する際に目立たなくなるということもあるのですが、担当課に伝え、ポケットサイズのもの大きめのサイズのものとの併用できるのか検討していきたい。

次に、公式キャラクターの活用に関連して、ご当地ナンバープレートについては、現在、実施計画でも事業を採択しており、作成に向けて検討がすすめられている。こちらの意見についても担当課に伝えていきたい。

最後に、ふるさと納税について、地方では高価な返礼品が展開されているところであるが、本市においては、あきしまの水ペットボトルや昭島ブランド構築・推進事業の中で開発した商品、さらには友好都市である岩手県岩泉町の龍泉洞の水ペットボトルなど、国の基準に基づいて展開している。

本市にふるさと納税していただいている件数は増加しているものの、地方の高額返礼品の影響により流出している額が大きい状況である。本来のふるさと納税の趣旨に立ち返り、そのあり方について、見直していかなければならないと感じているところであるが、本市は、国の制度に沿った形ですすめていきたいと考えている。また、公式キャラクターの活用に関連して、今年度新たにアッキー・アイラングズを作成した。市外の方々にも、魅力を発信し、再度アキシマクジラで昭島を盛り上げていこうという意も込めて、このグッズを返礼品とすることも検討しているところである。

山内委員・・・ 拝島駅周辺整備事業及び市内文化財と水の名所めぐり事業について、拝島駅周辺には、玉川上水とその分水がある。玉川上水には遊歩道があるが、もう少し整備され、歩きやすくなると良いと感じている。遊歩道をすすむと立川飛行場の滑走路延伸計画と関連してちょっとした公園が作られているが、その公園も歴史的経緯の説明と併せてもう少し整備されると、興味を持たれると思う。また、ブログなどを見ると玉川上水の分水めぐりをしている方が多く見受けられる。拝島駅の周辺には拝島分水、柴崎分水、砂川分水と3つもある。民地を通ったりするので難しい面もあると思われるが、分水の脇を遊歩道にすると、市民の方々の憩いの場・散歩道として良いのではないかと思う。そして龍津寺南の湧水の脇などは現在、レンガ畳として整備されているが、植栽など施し、散歩道として整備するのも良い。

昭島ブランド構築・推進事業が記載されているが、昭島の他にない魅力というのはやはり「水」である。昭島市全体を売り出すコンセプトとして、「水のまち あきしま」ということで、例えば水道水のおいしさ、玉川上水があること、きれいな湧水があること、この3つを合わせて、市内外に大々的にPRすると良いと感じる。

委員長・・・ 水ブランドは、市としても色々な形で取り組んできていると思われるが、山内委員からあったとおり、水道水としての魅力だけではなく、自然の分水や湧水などを統合し、市としてどのように考えているのかを聞きたい。

事務局・・・ 北部を流れる玉川上水、そして拝島分水、柴崎分水、砂川分水とある

が、蓋をかけて流れている区間が多くて、人が親しめる空間というのは意外と少ない。それでも中には良い場所もあり、そういったところをクローズアップする取組も面白い。また、龍津寺南の湧水も、経費をかけて一定程度整備し、遊歩道とした。あの程度まで経費はかけられないかもしれないが、スポット的に憩いの場所みたいなものを作り出し、水のまち昭島をより一層PRしていくのは有効な手立てだと考える。費用対効果も考えながら、いただいた意見を参考にさせていただきたい。

委員長・・・ 山内委員からの意見にもあったように、今後については、飲料水としての深層地下水100%の水道水だけにとどまらず、例えば、玉川上水や多摩川、湧水も含めた水資源を一体的に捉え、昭島にとっての水のPR方法を掘り下げ議論し、水環境に恵まれた「水のまち昭島」として、全体的なイメージ構築に繋がる検討も必要ではないかと考える。

樽松委員・・・ 昭和の森音楽祭について、開催場所を屋外から屋内へ変更した結果、目標達成に至らなかったとあるが、ではなぜ開催場所を変更したのかと単純に疑問に思ったが、いかが。

委員長・・・ 平成26年度に台風のため中止になったということを受けて、屋内に変えたということか。

屋外で流動的に観覧している人数のカウントと、屋内で固定的に観覧していた人数のカウントを比較すると、3,000人とする目標値は厳しいかと感じる。一方で、天候に左右され、開催そのものが危ぶまれる状況よりも、少し集客が落ちたとしても確実に毎年度開催できることを選択したことも理解できる。それらを踏まえるとKPI自体を変えていかないと目標達成は厳しいと思われる。

事務局・・・ なぜ屋外から屋内へ変更したのかについて、詳細な理由に修正する。それを踏まえ、天候に左右されず、安定的に開催できる屋内会場に変更したということと併せて、流動的な観覧者数から固定的な観覧者数をカウントする方法に変更したことにも触れ、改めてKPIを修正すべき項目として捉えさせていただく。

水野委員・・・ 多摩テクノプラザの中に多摩職業能力開発センターがある。そこには車の車体にスプレーでペイントする塗装課というところがある。先ほどアッキー・アイランの話もあり、アキシマクジラ学名付与の話もあったが、それらを庁用車などにペイントするといったPR方法は考えられないか。市にとってはPRになり、彼らにとっては訓練になるということで、お互いWin-Winの関係で事業を構築できる。

事務局・・・ 大変ありがたい話であり、検討したい。

沼崎委員・・・ アキシマクジラの化石レプリカ作成事業について、予算規模はどれくらいなのか。というのも、最近、ふるさと納税型のクラウドファンディング事業が各自治体で行われている。岡山県では河川の再生プロジェクト、北海道ではスキージャンプ選手の育成プロジェクトなどがクラウドファンディングで資金調達されている。せっかく良いものを作るので、作成過程も市内・市外の注目を浴びるような仕組みがあっても良いと思う。

委員長・・・ 本事業について、市民の皆さんはご存知なのか。

事務局・・・ 広報等を通じて発信はしているが、具体的内容はご存知ない方が多いのかもしれない。ふるさと納税型のクラウドファンディングについては、どの事業が適しているか、検討しているところである。

- 委員長・・・ 市民が応援したくなるような事業が対象になると思われる。ロケーションサービスにおけるロケ実績数などは伸びているようだが、これはまさに市民の皆様が参加して、PRに協力していくといった典型的なものだと思われる。これは徐々に定着してきたということなのか。
- 事務局・・・ 市外の方も含めボランティアエキストラの登録も増えていると聞いている。
- 樽松委員・・・ これについては、私は委員であるが、1,000人弱はいると思われる。ただ、テレビを見ると、昭島ロケーションサービスとわかるようなテロップが流れる事が少ない。「昭島市」と文言を出して欲しいと強く思うところがある。
- 委員長・・・ ボランティアエキストラの登録数が800人を超えていることは数字的にも大きなインパクトがある。KPIにする必要はないが、報告書の中に記載しても良いと思われる。
- 事務局・・・ 対応する。
- 勝見委員・・・ 観光マップ等について、五日市鉄道の史跡があるのに掲載されていなかったもので、是非反映してほしい。
- 事務局・・・ 担当課に伝え、対応を検討する。

③基本目標3「若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる」について

○事務局より資料に基づき、説明

- 委員長・・・ 基本目標3は、「若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる」ということである。KPIを修正したものが含まれており、妥当な結果に落ち着いている印象を受けるが、ご意見やご質問をいただきたい。
- 水野委員・・・ こんにちは赤ちゃん事業について、生後4か月までの乳児全戸訪問を101%達成したということで、大変素晴らしいと思う。細かい点であるが、1%の部分はどうのような算出となっているのか。
- 事務局・・・ 担当課に確認したところ、年度の区切りはあるものの、年度を跨ぐケースがあり、それが含まれているとのことである。
- 水野委員・・・ 多子出産祝い事業について、今はどのようなお祝い品を提供しているのか。
- 事務局・・・ 藍染めのタオルを提供している。
- 樽松委員・・・ 妊婦健康管理支援について、毎年度減少しており、事業の土日開催を検討しているようだが、それで持ち直すものなのか。
- 事務局・・・ 事業導入時は、ホテルの会場を借りて、日常生活から離れた空間でリラックスして事業に参加できるような通常の教室とはワンランク上の環境整備というのがコンセプトとしてあった。一方、ホテル側としては、土日は一般利用客も多く、土日の開催は厳しいという話も当初からあったところである。参加人数は減ってはいるものの、大変好評であり、また、参加者同士で、その後ネットワークが構築できているという部分もある。場所を変えて目標を達成したとしても、他の課題が出てくるといったことも考えられることから、コンセプトや対象者など事業のねらいをもう一度整理して、それに見合った目標値の設定を検討しても良いのではと考えている。
- ただし、参加数の減少に歯止めをかける必要もあることから、事業の周知方法など再検討していかなければならないと考えている。

- 樽松委員・・・子育てハンドブックの作成について、目標値は10,000部作成し、3年ごとに改訂とある。平成26年度に10,000部作成し、平成27年度に3,000部、平成28年度に4,000部、平成29年度に3,000部を配布し、その後平成29年度に10,000部作成し、3,000部、4,000部、3,000部と配布すると思っていたが、資料を見ると、平成30年度の改定予定がなく一般配布を減らしたと記載されている。実際に平成29年度に作成はあったのか、なぜ減らしたのかがよくわからない。
- 事務局・・・本来であれば平成30年度以降の配布に向けて、改正を踏まえた形で平成29年度に10,000部作成する予定であったが、平成30年度の改定がないことから、乳児全戸訪問及び一般配布分で平成29年度は2,000部配布し、残りの1,000部で平成30年度の対応を図るといった現状にあるかと思われる。もう一度担当課に確認し、別の要因であれば、次の会議で報告する。
- 勝見委員・・・昭島市リーダーズクラブの育成について、小学生リーダーは目標値の講習会参加者数延べ1,800人に対して、実績値は2,264人となっている一方で、中学生リーダーは、目標値の講習会参加者数25人に対して、17人とどまっている。なかなか中学生年代に繋がっていないなという印象を受けた。これについて、担当課はどのような取組をしているか確認したい。
また、リーダーズクラブ会員数38人となっているが、他市等と比べても少ないと思われる。他市との交流も含めてリーダーズクラブの会員が増えるような取組を今後どのように考えているか確認したい。
- 事務局・・・担当課に確認し、報告したい。
- 委員長・・・リーダーズクラブというのはどこの自治体にもあるものなのか。
- 勝見委員・・・どこの自治体でもある。立川市だとこの約10倍の会員がいる。
- 樽松委員・・・ファミリーサポートセンターについて、目標値に達していないが、事業内容として、目標値に達しなくても良いものだと思われるが、いかが。
- 事務局・・・ファミリーサポートセンターについては、前年度から減少しているが、これは他制度が充実したことが背景にあり、今、樽松委員からご意見いただいたとおりで。今後、他制度がますます充実してくれば、ファミリーサポートセンターの該当部分の利用者数は減ってくるものと思われる。市の取組全体として支援を要する人にサービスを提供できている。当初設定したKPIは達成できていないが、事業の目的は達成できている現状である。
- 委員長・・・そのような部分は、ある程度柔軟に見ていく必要がある。数字だけが一人歩きしてしまっても本質を見失う。全体として他の制度やサービスが充実しているのであれば、それで補えていると、またはそちらのほうがニーズが高いということで、それはそれで良いかと思われる。そのような注釈を報告書の中に記載していきたい。
- 水野委員・・・企業管理職向けのワーク・ライフ・バランス講演会の開催について、資料上、一つ上に記載されている男女共同参画講演会と同一の説明とされており、それぞれが隔年で実施されるようにKPIが設定されているが、隔年で講演会を実施していくという理解で良いのか。
- 事務局・・・KPI設定の段階では、隔年で実施していくという考えをもっていたが、内容的にはイクボスもワーク・ライフ・バランスも相通じるものであることから、継続した内容で、各企業や市役所の管理職にも周知を図り、参加者の間口を広げるとともに、さらにはワーク・ライフ・バランス優良

企業認定制度にも繋がるよう、講演会を一本として執り行っている現状であるため、同一の説明で記載をさせていただいている。

委員長・・・ 本日は、この基本目標3までとさせていただき、次回、基本目標4と報告書の内容について議論していきたい。

事務局・・・ 今日いただいた意見を踏まえて、基本目標1から3までの報告書を作成する。できればデータ等で事前に送付し、次回の会議までに確認していただく時間をとりながらすすめていきたい。そのような段取りで、次回の議題では、基本目標4について、本日と同様なすすめ方をさせていただき、その後、基本目標1から3までの評価報告書のご意見をいただきたい。その後、基本目標4までの報告書は郵送やメール等でご意見をいただく中で、最終的には委員長、副委員長と確認を行い、委員会としての報告書としてまとめさせていただきたい。

また、この総合戦略は、人口ビジョンも含めて平成27年度からの5か年計画となっており、平成31年度をもって計画期間が満了し、見直しの時期となる。一方で、上位計画である第5次昭島市総合基本計画が平成32年度で10年の計画期間が満了することとなっており、今年度から、次期総合基本計画策定に向けてデータ分析をすすめているところである。今後、総合戦略についても上位計画である総合基本計画との整合性を図る必要があることから、計画期間を1年延伸したいと考えている。次回、詳細な説明を行うが、延伸についてご意見をいただき、委員会としての了承をいただければ、報告書の中で、延伸について記載をしたいと考えているので、よろしくお願ひしたい。

3. その他

事務局・・・ 次回の日程を確認したい。次回は8月17日（金）、午後6時30分から庁議室で開催する。前回調整時には全員出席できる旨を確認させていただいたが、もし欠席する場合は、事前に連絡をいただきたい。

4. 閉会

委員長・・・ 以上をもって、第2回総合戦略推進委員会を閉会とする。